

第12回ユネスコスクール全国大会 持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会

抄録

[日時]令和2年12月6日(日)

[会場]オンライン開催

主催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会

共催：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム

協力：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター／公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

後援：(予定)外務省、環境省、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国国公立幼稚園・こども園長会、日本私立大学協会、(一社)日本私立大学連盟、日本私立中学高等学校連合会、日本私立小学校連合会、全日本私立幼稚園連合会、(公社)日本PTA全国協議会、全国国立大学附属学校連盟、(一社)国立大学協会、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)、ESD活動支援センター、日本ESD学会、(株)教育新聞社

協賛：カシオ計算機株式会社、株式会社フジテレビジョン、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社ユニクロ／株式会社ジーユー

(ESD)研究大会 開催に寄せて



文部科学大臣 萩生田 光一

第12回ユネスコスクール全国大会(ESD研究大会)の開催に当たり、御挨拶申し上げます。

いま、世界中が新型コロナウイルスの流行という危機に直面しています。我が国では現在、ほぼ全ての学校において教育活動が再開されていますが、これは、学校の設置者や教職員の皆様が感染症対策と教育活動の両立に心を砕き、日々、大変な御尽力をいただいているおかげであり、心より感謝申し上げます。

さて、「持続可能な開発のための教育(ESD)」については、今年度から本格実施の新学習指導要領において、「持続可能な社会の創り手の育成」という目標が掲げられています。新型コロナウイルスの流行や大規模災害、気候変動等、予測困難な時代において、持続可能な社会づくりに対する関心の高まりとともに、SDGs実現をいわば「自分ごと」として捉えるESDの推進が、より一層求められています。

文部科学省では、ユネスコスクールをESD推進の「拠点」と位置付け、ESDの推進に取り組み、世界的な学校間ネットワークを活用した交流、好事例の共有、教員の知見の共有など、活動の質の向上に努めてまいりました。

新学習指導要領に基づくESDの普及に当たっては、これまで各ユネスコスクールが取り組まれてきた、ESDに関する教育実践の蓄積の活用が不可欠です。各地のユネスコスクールが地域や社会でESDを展開する核としての役割を果たすとともに、ユネスコスクール以外の学校に対してESDの実践を広める拠点としても活動することを期待します。

今回のユネスコスクール全国大会は、昨年ユネスコ及び国連で“ESD for 2030”が採択されたことを踏まえ、これまでの我が国のユネスコスクールの活動を検証するとともに、SDGsが目指す2030年を見据え、持続可能な社会を構築するためのESD、SDGs、ユネスコスクールの役割について改めて考えるプログラムとなっています。

また、オンラインを積極的に活用しており、国内および海外のどの地域からも御参加いただけます。このメリットを生かして、活発な情報交換・実践交流の機会となれば幸いです。

本大会の開催に当たり御尽力いただいた関係の方々に深く感謝申し上げますとともに、本日御参加の皆様には、ESDの更なる推進のために御協力賜りますようお願い申し上げます。

第12回ユネスコスクール全国大会/持続可能な開発のための教育 (ESD)研究大会 開催に寄せて



日本ユネスコ国内委員会会長
濱口 道成

ユネスコスクール関係者の皆様には、日頃より持続可能な開発のための教育（ESD）をはじめとするユネスコ活動の推進に御尽力いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。さらに今年は、新型コロナウイルスの流行による様々な制約の下、学校活動を継続し、教育の機会確保に向けた皆様方の御尽力に対して敬意を表します。また、コロナウイルス感染により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますと共に、感染された方々の一刻も早い回復を心より祈念します。

ユネスコは、教育、科学及び文化の協力と交流による国際平和と人類共通の福祉の促進を目的として 1946 年に設立されました。また、日本が第二次世界大戦後の荒廃の中で初めて加盟した国際機関であり、我が国は、来年、ユネスコ加盟 70 周年を迎えます。この 70 年間、我が国は、世界平和への貢献としてユネスコの活動を支援し、ユネスコスクールを含め、全国でユネスコ活動の実践が行われてきました。

ユネスコ憲章は、無知や偏見によって人々の心に生じる疑惑や不信が差別や戦争の原因になると述べています。今、世界は、気候変動や国際秩序の変化にコロナ禍が拍車をかけ、激動の中にあります。国内外における格差の拡大や、国家間の摩擦や確執、新型コロナウイルス感染に対する不安などが人々の間に疑惑や不信を生み出しかねない状況にあります。

さて、12月2日現在、世界全体では148万人の方が既に亡くられております。他方、日本においては、2,200人余りの方が命を失っておられます。改めて、皆様の犠牲の上に、日本が有ることを実感致します。古来、自然災害を多数経験して来た日本は、自助・共助・公助を教育の中で育み、科学への理解が定着していることが私たちの社会と文化を形作っていることを痛感致します。

更に、このコロナ禍の現状をかえりみて、70年前、死線を越えた深い思索に裏打ちされたユネスコ憲章の次の一節を思い起こす次第です。「文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育は、人類の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神を持って果たさなければならない神聖な義務である。」

コロナ禍の中で、皆さん大変な思いをされているかと思いますが、ユネスコスクールの関係者の皆さまがこの言葉を胸に日頃の活動に取り組んでいただくとともに、本大会が、新しい時代におけるユネスコスクールの発展に寄与することを期待致しております。

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

開会挨拶 10:00～10:10

- ▼萩生田光一（文部科学大臣）
- ▼濱口道成（日本ユネスコ国内委員会 会長）
- ▼特別メッセージ：香川照之（文部科学省 こどもの教育応援大使）

文部科学省からの施策説明 10:10～10:20

ユネスコスクール地方ブロック大会からの報告 10:20～10:35

- 北海道・東北ブロック：市瀬智紀（宮城教育大学教授）
- 近畿ブロック：中澤静男（奈良教育大学准教授）
- 中四国ブロック：藤井浩樹（岡山大学教授）

パネルディスカッション 10:40～12:00

2030年—学校教育のグランドデザイン

—— 持続可能な社会を構築するためのESD、SDGs、ユネスコスクールの役割

2014年に採択された「ユネスコスクール岡山宣言」から5年以上が経過した今、ESDの推進拠点として活動してきたユネスコスクールの活動を検証するとともに、2030年の教育を目指した今後の展望を探ります。また、学習指導要領で進めようとしている教科等横断的な学びを創るカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びへの授業改善などとESDのつながりに言及していきます。

浅田和伸（文部科学省総合教育政策局長）

加藤久雄（奈良教育大学学長）

杉村美紀（日本ユネスコ国内委員会教育小委員会委員長、上智大学グローバル化推進担当副学長）

司会：小木曾浩介（株式会社教育新聞社編集部長）

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

企業への質疑応答 12:00～12:20 ～企業が行う教育支援や社会貢献に関する情報提供～

企業	テーマ
株式会社三菱 UFJ 銀行	サステナビリティへの取り組み
株式会社フジテレビジョン	フジテレビのコンテンツで SDGs と英語を学ぼう！
株式会社ユニクロ／株式会社ジーユー	“届けよう、服のチカラ” プロジェクト
NPO 法人いのちの教室	「いのちの授業」の取り組み

実践研究 13:20～14:20

岡山宣言のコミットメント・提言 13 項目を分析する 3 つの観点から課題と展望を探ります

【観点①】 解決方法を探る、行動につなげる

【観点②】 各学校の成果等を学校間、地域、国内外へつなげる

【観点③】 学校の実践、取り組みを評価し、成果を広める

(岡山宣言のコミットメント・提言 13 項目は[大会サイト上](#)でご確認ください)

実践研究	テーマ	ファシリテーター
実践研究① ～第一会場～	課題解決のための行動化を促進する 【観点①】	中澤静男(奈良教育大学准教授) 発表校：奈良市立都祁小学校
実践研究② ～第二会場～	ESD を深化・発展させるための仕組みと 仕掛け【観点②】	藤井浩樹(岡山大学教授) 発表校：岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク
実践研究③ ～第三会場～	SDGs に基づいた課題研究・探究活動と その評価方法の考察【観点③】	市瀬智紀(宮城教育大学教授) 発表校：宮城県仙台第三高等学校

分科会 14:30～16:40

分科会	テーマ	コーディネーター
第1分科会 ～第一会場～	課題解決に取り組み、行動する児童生徒の 育成【観点①】	千葉正法(多摩市立多摩中学校校長)
第2分科会 ～第二会場～	ESD を踏まえた学習指導要領の趣旨の実現 —2030 を目指して【観点①】	手島利夫(前江東区八名川小学校校長/NPO 法人日本持 続発展推進フォーラム)
第3分科会 ～第三会場～	ESD の本質を理解し、魅力を広く社会に 伝える【観点①②】	住田昌治(横浜市立日枝小学校校長)
第4分科会 ～第一会場～	ESD の実践をどう評価し、活かしていくか 【観点③】	棚橋乾(東京都多摩市立連光寺小学校校長)
第5分科会 ～第二会場～	アジアにおけるユネスコスクールを中心 としたネットワークの展開【観点②】	(公財)ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)
第6分科会 ～第三会場～	学校・地域社会・行政の有機的連携による ESD の実践【観点②】	安田昌則(大牟田市教育委員会教育長)

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

企業への質疑応答 12:00～12:20～企業が行う教育支援や社会貢献に関する情報提供～

株式会社三菱 UFJ 銀行

サステナビリティへの取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の危機に直面し、いま、私たち民間金融機関には、安定的な資金決済機能の提供や、迅速な資金繰り支援が求められています。

MUFG では、サステナビリティへの取り組みを経営の最重要課題の一つと位置づけており、「持続可能な環境・社会が MUFG の持続的成長の大前提である」との考えのもと、環境・社会課題の解決と MUFG の経営戦略を一体と捉えた事業運営をめざしています。

社会からの期待と、MUFG の事業領域との親和性を考慮し、優先的に取り組む7つの環境・社会課題を設定、推進しています。また、サステナブルファイナンス目標（2030年までに累計20兆円）を公表し、環境・社会分野において持続可能な社会実現に資する事業に取り組むお客さまを支援しています。

事業以外の社会貢献活動としても、2009年より日本ユネスコ協会連盟さまと協働で実施している「SDGs アシストプロジェクト」などの次世代支援をはじめ、社会にとって真に必要な領域に対する支援を行っております。

私たちは、社会機能の維持に不可欠な金融インフラを守るとの使命のもと、これからも皆さまの期待に応えてまいります。

<問い合わせ先>

株式会社三菱 UFJ 銀行 サステナビリティ企画室 TEL : 03-5218-1836

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

企業への質疑応答 12:00～12:20～企業が行う教育支援や社会貢献に関する情報提供～

株式会社フジテレビジョン

フジテレビのコンテンツでSDGsと英語を学ぼう！

[概要]

フジテレビは、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、みんなが平和で健やかに暮らせる社会の実現に貢献する番組づくりを行っています。

- ① 世界初のSDGsレギュラー番組「フューチャーランナーズ～17の未来～」(毎週水曜 22:54-23:00・関東地区)。SDGs達成のために走り続けている人々を紹介し、今地球上で起きている問題をわかりやすく伝え、行動のきっかけを掴んでもらう番組です。英語字幕付きで、過去の放送もウェブで公開中。<https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>
- ② テレビと連動した学習サイト「サステナ英語レッスン」(毎週木曜更新)。字幕用に翻訳した英語をSDGsと関連させて解説します。生徒役は、地球環境や気候変動に興味があるガチャピンとムック。英語のキーワードは、フジテレビアナウンサー鈴木唯によるボイスサンプルで聞くことができます。<https://sasutena-eigo.fujitv.com/>

これらを通じて、持続可能な社会の担い手となる子どもたちに発信し続けます。

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

企業への質疑応答 12:00～12:20～企業が行う教育支援や社会貢献に関する情報提供～

株式会社ユニクロ / 株式会社ジーユー

“届けよう、服のチカラ” プロジェクト

[概要]

“届けよう、服のチカラ” プロジェクトは、全国のユニクロ・ジーユーの店舗で行っている「全商品リサイクル活動」の一環として2013年から始まった、児童・生徒による子ども服の回収プロジェクトです。回収した衣料は、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を通じ、世界中の難民・避難民のもとに届けられます。

本プロジェクトでは、まずユニクロ・ジーユーの社員が、服のチカラや難民問題について出張授業をします。その後、児童・生徒が主体となって、学校全体や地域社会を巻き込みながら、衣料の回収を行ないます。2019年度は小中高422校、約40,000人が参加し、プロジェクト開始時からこれまでに延べ1,889校、約20万人の児童・生徒が参加しています。2020年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、映像データを用いた「動画授業」、更にWeb会議システムを用いた「オンライン授業」の2つの授業形態を新設しました。

先生からは、『「世界」や「平和」という大きなテーマを、慣れ親しんだユニクロやジーユーの服を入口とすることで、「自分にも何かできるかもしれない」と勇気を持たた』『この活動を通して、地域の方々と関わることができ、視野を広げることができた。同時に、社会に役立つことを実感し、自己肯定感を養うことができた』という評価をいただいています。

弊社では、今後も本プロジェクトを通じて、未来を担う子どもたちの育成に貢献していきたいと考えています。



<問い合わせ先>

“届けよう、服のチカラ” プロジェクト事務局 TEL 03-5565-6551
(土日祝日を除く 10:00-18:00) E-mail: fukunochikara@fastretailing.com

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

企業への質疑応答 12:00～12:20～企業が行う教育支援や社会貢献に関する情報提供～

NPO 法人いのちの教室／協賛カシオ計算機株式会社

「いのちの授業」の取り組み

[概要]

カシオ計算機に在籍中、命の視点で持続可能な社会の実現に寄与すべく立ち上げた出前授業：「いのちの授業」は、2019年10月24日現在で、小、中学校を主体に、延べ640機関（幼稚園～大学、行政、PTA、地域社会からの講演等々）、74,000人を数えています。カシオ退職と同時（2016年）にNPO法人を立ち上げ、現在に至っております。過去、全国の多くのユネスコスクール様からもご要請をいただいております。本授業は、生徒さん方が一緒に参画し、且つ、授業を構成する主体的な立場に立って、自ら考え、気づきを持っていただく場としております。そのため、幾つかの話（生きる意味、生きる価値、命の大切さ、絆、心の眼等々）をお伝えしますが、捉え方は生徒さんの心の在り方を尊重させていただきながら、心の中から大切な思いを引き出す授業としております。今後も、生徒さんの心の中に届く授業の実践に努め、広く社会に受け止めていただけるよう、積極的な活動を展開して参ります。



<問い合わせ先>

NPO 法人いのちの教室 理事長 若尾久 TEL : 055-225-6550

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

実践研究 13 : 20～14 : 20

実践研究①「課題解決のための行動化を促進する」【観点①】

[概要]

現在は過疎化が進み、3年前には4つの小学校を統合再編しました。本校は、4年前に4つの学校が統合再編された学校です。統合再編からの2年間は新しい環境に入り込めず、自尊感情が高まらない傾向にありました。そこで、昨年度より、生活科や総合「なら」科において、企業や事業者、高校等を積極的に“学び”に取り込み、“ポジティブに捉えられる機会”を6年間の系統立てた教育活動の中で展開しています。ここでいう“ポジティブ”とは、これまでの郷の良さを見つける学習に終始することなく、“都祁であそぼ”を念頭に、今まで気付かなかった郷の良さや、“学び”の中で知り得た情報をもとに、持続可能な社会の一員として『くらしの向上』を考えるとともに、プレゼンのターゲット（対象者）さえもが、都祁の良さに触れられた時、自らの生活に目を向け、その良さを感じられることができるためには、どのように情報を発信していけば良いのかを考える教育活動です。

このような活動を通し、

- ・郷の良さを愛する心（郷土愛）
- ・互いの考えを受け止め協力し合える力（他者理解⇒多文化共生社会で生きる素地）
- ・確からしさを基に伝える力（プレゼンテーション：情報リテラシー・情報収集等）

を育む中で、わたし、わたしたち、わたしたちの周りの人、未来の人も含めた幸せを考えられる素地と、“自分が大好き！”と誇りを持って言える人へと成長することを期待しています。

ファシリテーター：中澤静男(奈良教育大学准教授)

発表校：奈良市立都祁小学校

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

実践研究 13：20～14：20

実践研究②「ESDを深化・発展させるための仕組みと仕掛け」【観点②】

[概要]

ESDを深化・発展させるには、ESD推進の「仕組みと仕掛け」が大切です。このセッションでは、学校内、学校間、および学校と他機関や地元地域との間の連携やネットワーキングに注目し、そのあり方について検討します。まず、2014年に岡山市で開催された「ESDに関するユネスコ会議」の高校生フォーラムを契機として誕生した「岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク」の取組を紹介いただきます（岡山県立矢掛高等学校 高木潤先生）。高校生の継続的な実践交流が展開される中、ユネスコスクールを卒業した若者（大学生など）がこれを支援しながら学んでいるところに大きな特長があります。つぎに、全国各地の先生方から仕組みと仕掛けのご経験をお話しいただきます。そしてこれらの取組を参考にしながら、ESD推進の仕組みや仕掛けを創っていく上での課題とそれを解決するための具体的方策について考えたいと思います。

ファシリテーター：藤井浩樹（岡山大学教授）

発表校：岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク

実践研究③「SDGsに基づいた課題研究・探究活動とその評価方法の考察」【観点③】

[概要]

本校はスーパーサイエンスハイスクール指定2期目（平成29年度～令和4年度）の実施に伴い、課題研究（SS探究）を普通科にも広げ3年間通して実施しています。理数科の指導で培った探究活動に必要な汎用性スキルの習得を目指し、『探究基礎』では探究活動の基礎を、『探究IおよびII』では自らが課題設定し、深い探究活動につなげることにしました。当初テーマ設定を自由にしていたが、課題の深まりを求めるためにテーマを地域や学際的な視点に立つSDGsに基づくものにしました。これらの探究活動について本校では独自に、獲得を目指す15のスキル等を設定し、そのスキル等の伸長を測ることやルーブリック、多面的パフォーマンス評価を絡めた研究を行っています。今後は、閉じた判断基準（学習指導要領に基づく観点別評価など）から開いた判断基準（学習者個人に紐付けられた能力の伸長）の作成についても検討を重ねていきたいと思っています。

ファシリテーター：市瀬智紀（宮城教育大学教授）

発表校：宮城県仙台第三高等学校

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

分科会 14:30～15:30

【第1分科会】「課題解決に取り組み、行動する児童生徒の育成」【観点①】

（環境、国際理解など様々な課題の解決方法を探り、行動化する子供の育成—教科横断的な学び、子供、教師の変容）

コミット・提言：①②④⑨

[概要]

多摩市では面としてESDに取り組むことで、子どもの学びを将来の意思決定や行動として育ちに結びつけようとしています。また、SDGsの目標を踏まえた様々な横断的な学習活動をつなげ、資質・能力で束ねながら、行動や価値観の変容に結びつけようとする試みを継続しています。コロナ禍以前や以降のそうした学習の一端やユネスコスクールとしての学校と地域の関わりに触れながら、その成果や課題について共有し交流したいと思います。

コーディネーター：千葉正法（多摩市立多摩中学校校長）

【第2分科会】「ESDを踏まえた学習指導要領の趣旨の実現—2030を目指して」【観点①】

（「学習指導要領の推進拠点」としてのユネスコスクールの意義・役割—カリキュラム・マネジメント、学校経営）

コミット・提言：①②④⑪

[概要]

今回の学習指導要領の改訂では、新たに「前文」が加えられ「持続可能な社会の創り手の育成」という理念が掲げられました。日本の教育がESDに向かって大きく舵を切り、教育課程の編成では教科等横断的なカリキュラム・マネジメントを工夫し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図るのだとしたら、その推進役は全国に展開するユネスコスクール各校の役割だと考えます。

日本の教育はいまだに「学力向上」の得点至上主義から抜け出せず、改善のノウハウも不足していますが、「ESDカレンダー」や、「子どもの学びに火をつける」単元の導入は、我々の常識となっています。また、全国の多くの学校で、昨年までと変わらない教育課程を引きずっているであろう意識の足りない校長先生方のお尻に火をつけるような「教育課程チェックシート」も紹介します。まずは、自校の教育課程、あるいは基本方針をお手元に置いてご参加ください。終了後には、プレゼンデータもお配りします。お楽しみに。

コーディネーター：手島利夫

（前江東区八名川小学校校長／NPO 法人日本持続発展推進フォーラム理事）

発表者：清水弘美（八王子市立浅川小学校校長）

白石二三恵（久喜市立栗橋西小学校校長）

田中一成（八千代市立大和田南小学校校長）

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

分科会 14:30～15:30

【第3分科会】ESDの本質を理解し、魅力を広く社会に伝える【観点①②】

(児童生徒が「ジブンゴト」として取り組むESDの実践——SDGsとの関連)

コミット・提言：①②④⑨⑩

[概要]

国連ESDの10年の最終年に行われたユネスコスクール世界大会での岡山宣言採択の場面が思い出されます。総括の大会にも関わらず、相変わらず「ESDへの認知度が低い」、「ESDをもっと広げていきたい」という意見が多くありました。ESDの本質を理解しないままに、フレームワークや見せかけだけのESD実践が行われ、既存の教育との違いを示せなかったことにも問題がありました。確かにESDは何も新しいことではないと言われてきましたが、既存の教育をESDの視点で振り返り、再方向付けし、新たな教育観を生み出す必要があると考えます。これまでユネスコスクール地域交流会や全国大会等で方法や活動中心の実践報告や研究発表が行われてきましたが、総合的な学習の時間の実践発表と何ら変わるところはありませんでした。残念ながらESDの評価として重要な、「価値・行動・ライフスタイルの変容」「児童・生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容」に触れて語られることは少なかったように思います。ESDの本質を明確にしつつ、持続可能な社会の創り手を育む教育は、今までと何を変えていかなければならないのでしょうか。岡山宣言から6年、コロナ禍の今こそESDを加速するために参会者の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

コーディネーター：住田昌治（横浜市立日枝小学校校長）

発表者：入江遥斗（横浜国立大学）

分科会 15:40～16:40

【第4分科会】「ESDの実践をどう評価し、活かしていくか」【観点③】

(児童生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容をどう明確化し、つなげるか)

コミット・提言：③⑨⑩⑪

[概要]

ユネスコが昨年発表したESD for 2030には、ESDの成果や評価などの言葉が散見されます。ESDを実践しているユネスコスクールではどのような成果（変容）があるのでしょうか。

2014年のユネスコスクール岡山宣言には次のように書かれています。「私たちは、ESDの本質を理解するとともに、ESDの魅力を広く社会に伝えるために、児童・生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容を明確にします。」とあります。

そこで、このコミットメントの具現化に向けた協議をします。協議内容は、ESDによる①教育（指導）の変容、②児童・生徒や教師の変容、③評価方法、④発信方法です。事例として東京都大田区立大森第六中学校と東京都多摩市立連光寺小学校の取り組みを発表し、参加者からの発言も含めて、協議を進めたいと思えます。

コーディネーター：棚橋乾（東京都多摩市立連光寺小学校校長）

発表者：柴崎裕子（大田区立大森第六中学校 指導教諭）

第12回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会 抄録

分科会 15:40～16:40

【第5分科会】「アジアにおけるユネスコスクールを中心としたネットワークの展開」

【観点②】

(グローバルなESDの拠点としてのユネスコスクールの実践と教師教育)

コミット・提言：③④⑥⑧⑫

[概要]

ユネスコスクールは、国際的なネットワークの一員として、平和、国際理解および持続可能な開発に貢献する活動が求められています。これまで日本の加盟校は、アジア諸国を中心に、生徒・教員の往来、協同プロジェクト、手紙やオンラインを通して、交流を深めてきました。子どもたち同士の友情の芽生えや国際的な視野の広がり、異文化理解等、交流による成果は大いにあるものの、ICT環境の整備、言葉の壁、交流の継続性が課題となっています。

『ユネスコスクール岡山宣言』では、海外、特にアジア諸国のユネスコスクールとの交流を通して、共にグローバルな課題解決に向けて取り組み、「変化の担い手」である子どもと教師を中心に持続可能な未来をともに築いていくこと、そのために教師教育が重要であることが提言されています。

本分科会では、事例紹介を通してアジア太平洋におけるユネスコスクールの交流の現状を学び、今後のネットワーク展開・構築について検討することを目的としています。

コーディネーター：(公財)ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

話題提供者：筒井清香 (ユネスコバンコク事務所)

話題提供者：佐々木哲弥 (杉並区立西田小学校)

話題提供者：藤井浩樹 (岡山大学大学院教育学研究科)

【第6分科会】「学校・地域社会・行政の有機的連携によるESDの実践」【観点②】

(さまざまな連携と交流を通じた持続可能な地域づくり)

コミット・提言：①⑤⑥⑧⑬

[概要]

新学習指導要領では、「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる」子どもたちへの教育の必要性が明記されました。このような状況のなか、ESDの学びの成果が、最終的に子どもたちの属する社会に現れてくるのが、改めて求められています。

学校時代に地域社会と連携する形でESDを経験した子どもたちは、大人になった際にさまざまな活動に取り組むことがスムーズになることでしょう。また、持続可能な社会づくりに取り組む地域社会やNPO、企業の側でも、子どもたちとの協働活動が行われると、活動の持続性が広がることにもつながります。本分科会では、学校が行政やユネスコ協会などNPOと連携して持続可能な地域づくりに取り組んでいる、愛知県豊橋市と北海道羅臼町から実践発表をしていただき、学校と社会の有機的なシナジーを考えていきたいと思えます。

コーディネーター：安田昌則 (大牟田市教育委員会教育長)

発表者：嶽山敏嗣 (北海道羅臼高等学校教頭)

発表者：渡邊正 (豊橋ユネスコ協会会長)

コメンテーター：及川幸彦 (東京大学大学院教育学研究附属海洋教育センター主幹研究員)